

事業所名	グループホーム日だまりハウス (クリックすると事業者の情報にリンクします)
日付	平成18年12月5日
評価機関名	㈱東京リーガルマインド (クリックすると評価機関の情報にリンクします)
評価調査員	A:現職 高等学校非常勤講師 資格・経験 看護師、社会福祉士、福祉住環境コーディネーター B:現職 理学療法士 資格・経験 理学療法士、介護支援専門員、ガイドヘルパー講師
自主評価結果を見る	(事業者の自主評価結果にリンクします)
評価項目の内容を見る	(評価項目にリンクします)
事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります！)	(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か(記述) <ul style="list-style-type: none"> 日々の生活はお天気次第で、入居者から自然にしたいことが出てくるような生活を目指している。 残っている機能を引き出すような生活支援を心がけている。 事務所には、「『端の人を喜ばず』仕事できていますか。『先を見た介護』できていますか。今日もしっかり端(はた)らいてください。」という言葉が掲示されており、孤独感なく、みんなと楽しく過ごせるような生活を目指している。 		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭の共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述) <ul style="list-style-type: none"> 過去の生活の様子などを写真で見ながら、今後の生活にも生きがいや喜びが見出されるように支援している。 入居者一人ひとりの生活歴や性格を把握し、個々にあった支援を工夫している。 「話し声はやさしく、笑い声は大きく、仕事の音は小さく」を心がけ、入居者が落ち着いて生活できるような環境に配慮している。 		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人で行えることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

外部評価の結果

講評
全体を通して特に良いと思われる点など(記述)
<ul style="list-style-type: none"> 東北の山間に位置するホームであるが、近くには交通量の比較的小さい国道が通る。一筋内に入ったグループホームの周辺は、入居者の散歩コースになっている。訪問当日は、数人の高齢者グループが散歩をしており、挨拶を交わしてくれた。近所の仲良いグループかと思っただ、このグループホームの畑をはさんで下の位置にある「日だまりハウス別館」の入居者であったようだ。日だまりハウスでも、入居者同士、または別館との合同での散歩に出かけることがよくあり、こういった光景は、日常的に見られるようだ。入居者は、四季折々の変化を感じながら、束縛のない自由な田舎暮らしを楽しんでいる。 平屋の建物周囲は、畑に囲まれている以外は、畑も門扉もない。玄関も開け広げられ、入居者は、庭で洗濯物を干す人、畑で野菜の収穫をする人、無花果をもいで食べる人、あずきをサヤから出し選別している人、うつらうつら日向ぼっこを楽しむ人などそれぞれ日だまりの中で過ごしていた。このグループホームの名称がぴったりとくる光景であった。庭には、むしろ、箕、ざるなど農業を営んできた入居者にとっては懐かしい品々が当たり前のようになら、使用されていた。今までの生活の延長が、入居者を落ち着かせている。 代表者は、グループホーム開設前から、地域の高齢者を車で、日帰り旅行、外食、温泉などにお連れしていた。また、託児のボランティア、小学校の本の読み聞かせなどをしてきた。その結果、開設当初から、地域からも受け入れられ、近隣とも良好な関係が保て、協力も得られている。 認知症の方に対し、本人の思っている現実を否定しない配慮が行き届いている。入居者の中には、自分をこのグループホームの住み込み職員だと思っている方もいる。そのため、職員会議は、入居者には見えない場所で行う。書類や、掲示物に対しても、細心の注意を払っていることがうかがえる。 家族が希望すれば、看取りについても受け入れる体制がある。入居者も、最期までここで暮らしたいと希望している。安心して過ごせる場所になっており、職員との信頼関係も築けている。
特に改善の余地があると思われる点(記述)
<ul style="list-style-type: none"> 介護計画は、具体的であったが、日々の記録があまり具体的でなく、計画との連動が読み取りにくかった。多くの良い関わりがあるにもかかわらず、それを証明する記録になっていないことは、残念である。計画に沿った記録で、さらに次の計画に生かされるような記録となるよう、書式などを再考されればより良くなると感じた。

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述) <ul style="list-style-type: none"> 入居者一人ひとりの生活歴を把握し、生活の中で活かされるように支援している。農業一筋に働いてきた男性入居者は、自分専用の菜園のスペースを持ち、農作業に動んでいた。長年まかない婦をしてきた入居者は、毎日の調理に動いている。職員は、見守り、時には野菜の栽培法や調理方法を教わりながら、落ち着いて生活ができるように支援していた。 入居者の顔写真などを出す時には、入居者本人や家族の了解を得よう、プライバシー保護への配慮をしている。 		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述) <ul style="list-style-type: none"> サービスの質の向上に向け、グループホーム同士で職員を交換して研修したり、外部の研修にも出かけている。 ヒヤリハットの報告書があり、報告の内容については、全員で検討し、事故の発生予防に向けて取り組んでいる。欲を言えば、今後は、事故報告書とヒヤリハット報告書をきちんと区別し、原因・傾向についてデータを分析し、事故発生防止や再発防止に向けたさらなる取り組みを期待したい。 入居者を含めて、避難訓練を実施している。また、職員は、消防署が主催する防火管理者研修を受講しており、防災に関する意識も高い。 		